

第4学年 道徳科学習指導案

1 主題名 もくひょうに向かって

2 教材名 「水泳選手・池江璃花子のちょう戦」(東京書籍 新しいどうとく 4「花丸手帳」改作)
A [希望と勇気、努力と強い意志]

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値や指導内容について

本主題は、新学習指導要領の内容項目 A [希望と勇気、努力と強い意志] の「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと」を中心の道徳的価値としている。子供が一人の人間として自立しよりよく生きていくためには、自分の目標に向かって、勇気をもって困難や失敗を乗り越え、努力できるようにすることが重要である。

この時期の子供たちは、様々なことに興味・関心を広げ、活動的になる。自分の好きなことに対しては、自ら目標を立て、継続して取り組むようになり、計画的に努力する構えも身に付いていく。その反面、つらいことや苦しいことがあると、途中であきらめてしまうこともある。

そこで、困難を乗り越えて目標を達成した実在の人物が出てくる教材を活用したり、自分が目標を達成したときの気持ちについての振り返りを促したりする。誰にでも苦しくて途中であきらめてしまいそうになる人間の弱さがあることを認めつつ、困難を乗り越えて目標を達成したときの嬉しさについて共有する。また、教材やこれまでの経験から、目標を実現するためには、自分自身の努力だけでなく、家族や教師、友達など、周りの人の励ましや賞賛があることにも気付けるようにする。自分で決めた目標に向かって強い意志をもち、粘り強く努力しようとする態度を育んでいきたい。

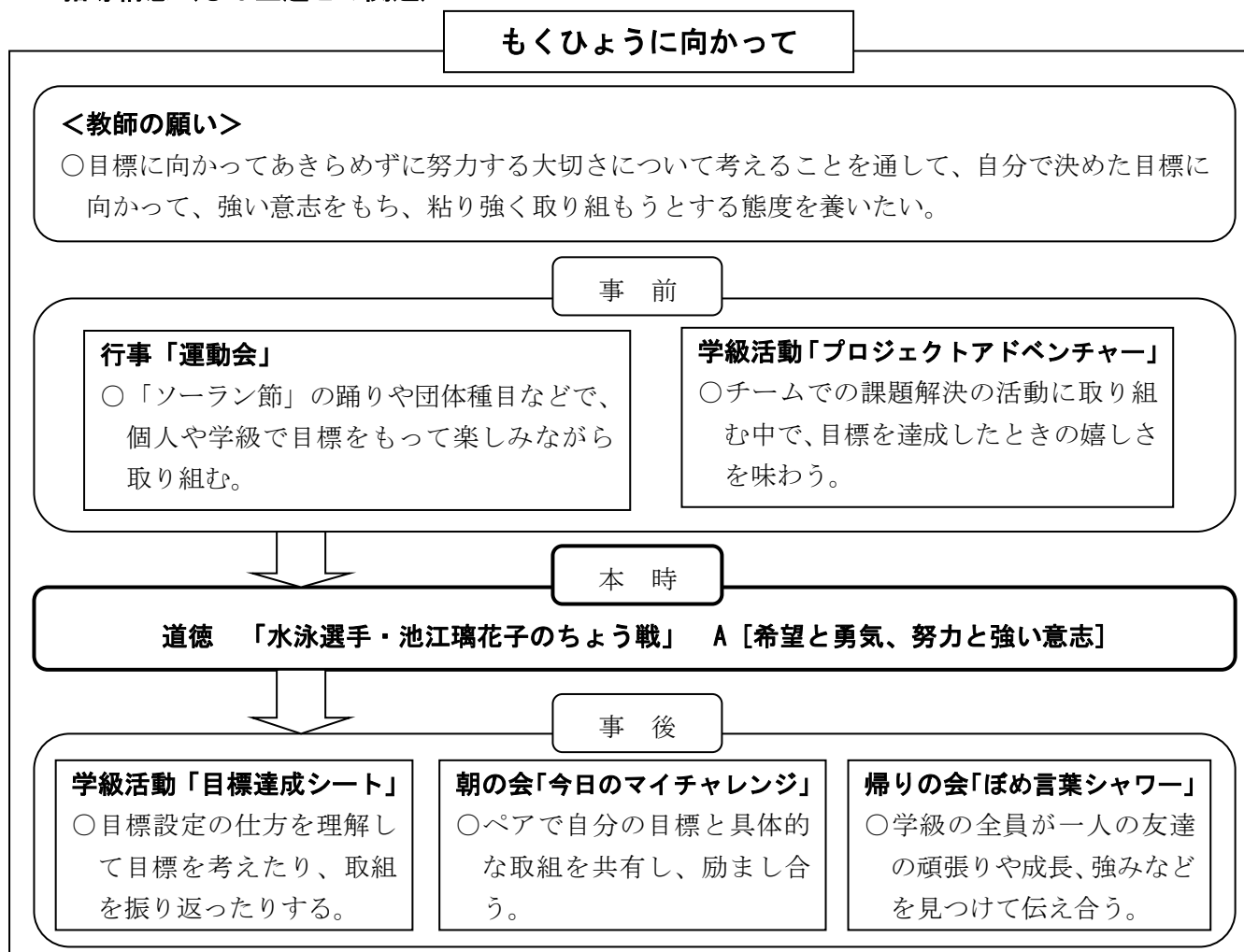
(2) 子供の実態と教師の願いについて

※個人情報保護の観点から削除

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、水泳の池江璃花子選手の実話をもとに作られている。池江選手が小学校3年生のときに目標を書いた手帳の資料を提示したり、学校に通いながら水泳で努力したエピソードを話したりすることで、子供たちは自分と重ねながら池江選手の意思の強さや、努力する姿勢について理解を深められるだろう。振り返りでは、池江選手と自分を比較するだけで終わらないように、誰にでも困難な状況であきらめてしまいそうになる心の弱さがあることを認めつつ、自分の目標を達成できた経験を振り返ったり、友達と励まし合ったりする場面を設け、自分の目標に向かって頑張りたいという気持ちを高めたい。

4 指導構想（○は主題との関連）



5 研究の重点との関連

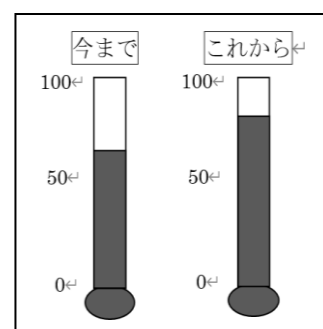
重点1 道徳的な課題を自分自身の問題と捉え向き合う「考え、議論する道徳」の推進

○スケーリング「心の温度計」を使った振り返り

本教材では、池江選手が小学生だったときの目標や取組について紹介されている。小学生の池江選手の取組を知ることで、自分と重ねながら池江選手の気持ちを考えることができるだろう。

しかし、「池江選手はすごい」という思いのみで、自分と関連付けて考えられない子供や、「池江選手のようににはできない」という思いをもつ子供もいることが考えられる。

そこで、「今までに目標を達成して感じた気持ち」と「これから目標を立てて達成したい気持ち」を見つめ、ワークシートの「心の温度計」に色を付けるようにする。そして、ペアで考えを共有して認め合う場を設ける。自分の気持ちを文章で表現することが苦手な子供も、温度計の図に色を付けることで気持ちを表現し、友達と共有することができる。また、友達と励まし合うことで、自分の目標を立てて前向きに取り組もうという気持ちを高めることができる。池江選手の姿から目標をもって努力しようという気持ちを高めるとともに、今までやこれからの自分の在り方について肯定的に考えられるようにしたい。



重点2 魅力的な教材の開発や、指導法の工夫

○登場人物の生き方や心情の理解を深める動画教材と心情曲線

登場人物の心情の変化が視覚的に理解できるように、板書で心情曲線を活用する。心情曲線の縦軸は、主人公の心の動きをプラス（快、嬉しい、楽しい）とマイナス（不快、悲しい、嫌だ）で表し、横軸は時間の経過を表す。主人公の心の動きや、その要因について話し合い、子供と一緒に心情曲線をつくることで、子供たちは主人公の心情について深く理解し、共感することができるだろう。

また、読み物教材以外にも、関連する写真や動画を大型テレビで提示する。池江選手が白血病を乗り越えた内容の動画を視聴することで、子供たちは、池江選手の生き方や心情、努力することの大切さについて、より理解を深めることができると思う。

6 本時の指導

(1) ねらい

目標に向かってあきらめずに努力する大切さについて考えることを通して、自分で決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強く取り組もうとする態度を養う。

(2) 展開

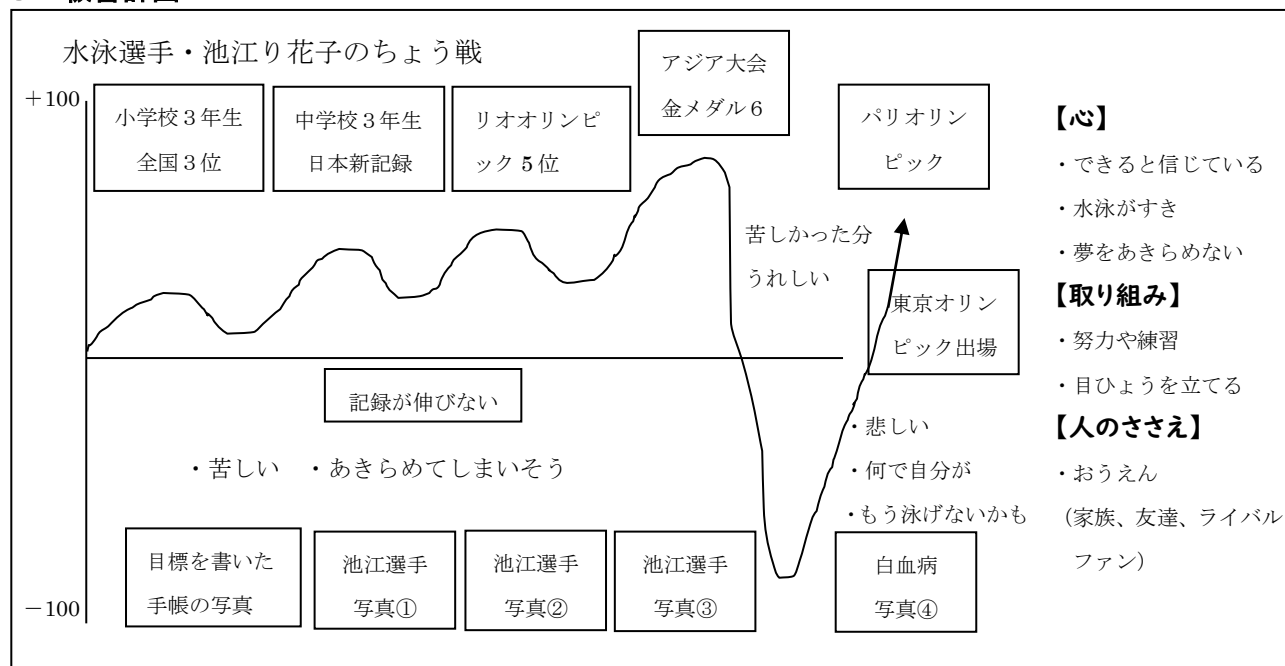
過程	学習活動と発問 (◎：主発問)	ねらいにせまる手立て	予想される子供の反応（・）
導入 ③	1 池江選手の写真を 見て話し合う。 ○池江選手について知 っていることはあり ますか。	○多くのメダルを手にした池江選手の写 真をテレビに提示し、教材への関心を高 める。 ○本時の学習では、池江選手の生き方や取 組を通して、自分自身のことについて考 えていくということを伝える。	・たくさんのメダルを持 っていてすごい。 ・池江選手のことはあま り知らない。 ・東京オリンピックに出 ていた。
展開 ⑦	2 教材「池江璃花子の ちょう戦」を読んで話 し合う。 ○記録が伸びなかつた り、大会でよい成績を 出したりしたときの 池江選手はどんな気 持ちだったでしょう。 ○あなたは自分の思い 通りにいかないとき にどんなことを考え ますか。	○池江選手が小学生のときに目標を書い た手帳の写真を提示し、池江選手の取組 や、目標を立てることの意義について理 解が深まるようにする。 ○場面絵や心情曲線を活用することで、 池江選手の逆境の時期や心情を理解で きるようにする。(重点2) ○自己を振り返る問いかけをし、池江選 手の心情を自分と関連付けて考えさせ、誰 にでも逆境であきらめてしまいそうに なる心の弱さがあることを確認する。	・池江選手は記録が伸び なくて苦しかったと思 う。 ・苦しかった分だけ、大 会でメダルをとれた ときは嬉しかったと思 う。 ・無理だとあきらめてし まうことがある。 ・苦しくても乗り越えら れたら嬉しい。
⑫	3 池江選手の動画を 視聴して話し合う。 ○白血病になったとき や、東京オリンピック に出たとき、池江選手	○動画を通して、病気の後も目標に向か って進む池江選手の取組や心情の理解 を深められるようにする。(重点2) ○池江選手の人生にあった困難を確認し、 困難を乗り越えられた要因について	・あきらめないで努力す れば目標は達成でき る。 ・支えてくれた人たちに 感謝している。

	はどんなことを考えたでしょう。 ◎池江選手がつらいときを乗り越えて前へ進めたのはどうしてでしょう。 ○あなたは、どの考えが最も大切だと思いますか。	様々な視点から考えられるようにする。 ○池江選手が逆境を乗り越えられた要因について「心」「取組」「人の支え」で分類して板書し、児童の意見を整理する。 ○話合いで出た意見の中で、最も大切だと思うことについての問い返しの発問をすることで、自分が大切にしたい考えを明確化させる。	・強い気持ちをもってあきらめなかったから。 ・目標に向かってたくさん練習したから。 ・いろいろな人が支えてくれたから。
終末⑩	4 本時の学習を振り返る。 ○池江選手から学んだことや、今までやこれからの自分について考えましょう。	○ワークシートの「心の温度計」を活用して、振り返った気持ちやこれからの意欲を可視化する。(重点1) ○ペアで振り返りを共有して、お互いの考えを認め合う場を設け、道徳的実践意欲が高まるようにする。 ○今後、学級活動で自分の目標を立てたり、目標に向けた取組を振り返ったりしていくことを伝える。	・池江選手みたいに目標を立てて努力したい。 ・習い事で目標を達成したときは嬉しかった。これからも目標に向かって頑張りたい。

7 本時の評価

- 目標に向かってあきらめずに努力する大切さについて、様々な面から考えようとしていたか。
(主に学習活動3の発言・ワークシートから)
- 目標に向かってあきらめずに努力することについて、自分と関連付けながら考えを深めようとしていたか。
(主に学習活動4の発言・ワークシートから)

8 板書計画



水泳選手・池江璃花子のちょう戦

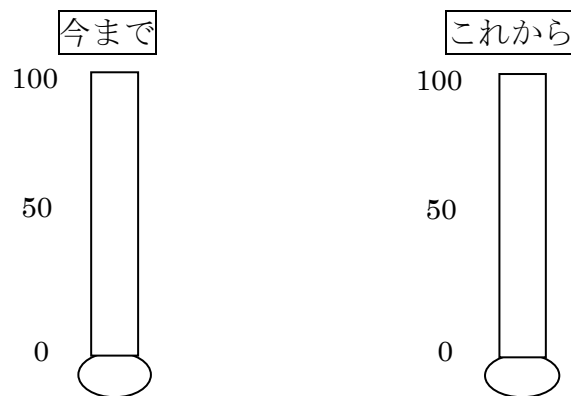
名前 ()

- 1 池江選手が つらいときを のりこえて 前へ 進めたのは どうしてでしょう。
(思いつくことを たくさん 書きましょう)

--

★友達の 意見で「なるほど」と 思ったことを 青で 書きたしましょう。

- 2 今日の 学習を ふり返って 考えたことを 書きましょう。
① 自分の 気持ちを 見つめて「心の温度計」に 赤で 色を ぬりましょう。



- ② 「池江選手のすがた」から 考えたことや、「今まで や これからの自分」について
考えたことを 書きましょう

「水泳選手・池江璃花子のちょう戦」

池江選手が水泳を始めたのは、3才のとき。おねえさんとお兄さんが習っているのを見て「わたしもやりたい。」と言った池江選手は、2人をおいかけるように、めきめき力をつけていきます。池江選手にとって、水泳は何よりも大事なものになりました。

小学校3年生でジュニアオリンピック大会（18才以下の日本最高レベルの大会）に出場し、全国3位のせいせきをおさめます。しかしこのあと、8か月間、全く記ろくがのびない、苦しい時期がやってきました。まるでトンネルの中にいるような日々でしたが、「深くなやまない、とにかく練習。」と自分に言い聞かせました。池江選手はあとになってから、このときのことを、「悪い方にばかり考えているとタイムものびないし、まわりの人にも伝わってしまう。ものごとを、できるだけよい方に考えるようにしました。」とふり返っています。きんちょうしたり、あれこれ考えすぎたりすると、体はかたくなります。すると、水泳では前へ進めなくなってしまう。気持ちを切りかえる大切さに気づいたことは、その後の池江選手の大きな強みになりました。

4年生のとき、池江選手は学校が終わってから、1日にやく3000メートルを泳いでいました。これは25メートルプールを60回おうふくするきよりです。練習を終えると、とてもつかれます。でも、どれだけねむくても、「勉強は毎日する」というのがお母さんとのやくそくでした。学校の宿題は練習の前にすませたり、登校前の朝の時間を使ったりと、いろいろくふうしました。

また、池江選手は毎年1月にその年に出場するレースとそれぞれのもくひょうタイムを、手帳に書きこみます。たっせいでできれば花丸をつける、小さいころからのしゅうかんです。「もくひょうは高く。でもそのもくひょうは、手のとどく小さなもくひょうを1つ1つクリアしながら、いつでも前を見て、かいだんをのぼるようにめざしていくものだと思います。」と、池江選手は話しています。

このようなきびしい生活を何年間もつづけて、池江選手の水泳のせいせきは、中学3年生で大きくのびました。4月に50メートル・バタフライで日本チャンピオンになったのははじめ、大きな大会で、よいけっかがつづきます。10月の大会では、100メートル・バタフライで、ついに日本新記ろく。その後の大会でも、100メートルと50メートルのクロールで日本新記ろく。池江選手は中学生にして、3しゅもくで日本記ろくを持つ選手となりました。

こうした中で、池江選手は、「2020年の東京オリンピック・メダリストになる」という、はっきりとしたもくひょうを持つようになります。中学校のそつぎょう文集にも、こう書きました。

「毎日学校で、みんなと、もっとわいわいしたかった。だけど、世界チャンピオンになるため、水泳の練習にはげみました。」

そして、2016年のリオデジャネイロ・オリンピックで7つのしゅもくに出場した池江選手は、自分のもくひょうを大きくこえる5位になり、2018年のアジア大会では、日本人で初めて6つのしゅもくで1位になりました。

だれもが池江選手の2020年東京オリンピックでの活やくを期待していました。

【動画の内容】

しかし、2019年の2月、池江選手は病院で白血病（血えきのがんの病気）と 진단されました。池江選手は薬などのちりょうを受け、やく10か月の入院生活で体重は15キロへりました。きん肉でおおわれていた体は、見るかげもないほど細くなりました。

入院している間、家族はもちろん、日本や世界の多くの人たちが池江選手をおうえんしました。また、病院で同じように病気とたたかう友達ができたことも池江選手の心のささえとなりました。

そして、つらく長いちりょうを続けた池江選手は、2019年の12月に退院しました。「病気とたたかうことは死ぬほどきつかった。いたいし、苦しいし、ちりょうも、この病気も、早くやめたかった。水泳を始めて15年間つみ上げたものはゼロになっちゃったかもしれないけれど、また新しい自分としてけっかを出せばいい。どりよくしだいで、けっかはどうにでもかわる。」と、ふたたびトレーニングを始めました。

その後、池江選手は医者からのきょかが出て、やっとプールに入って泳げるようになりました。病気になる前はつねだれよりも速く泳いでいた池江選手でしたが、練習を始めてしばらくはだれにも勝てませんでした。

「前までは練習でも自分が一番だったけれど、ふっき直後はだれにも勝てず、始めてネガティブになった。『もうだれにも勝てない』と決めつけていた。でも、マイナスな気持ちでは速くなれないし、意味がないと思って切りかえ、大会まではがむしゃらにがんばろうと決めた。好きな水泳は『苦しい』じゃなく、『楽しい』と考えてやればよいと思えた。」

池江選手は、2020年8月に水泳のレースにふっきし、2021年に行われた東京オリンピックでも日本代表選手として3しゅもくに出場しました。池江選手の大きな病気からのふっかつ、東京オリンピックの出場に、世界中の人々がおどろき、感動しました。

2024年のパリオリンピックと、さらにその先を見つめながら、池江選手のちょう戦は続いています。



一歩ずつ前へ！上へ！

「もくひょう」 たっせいシート

4年 組 名前（ ）

1 自分の「もくひょう」を立てて取り組みましょう。(学習・運動・生活・習い事など)

「もくひょう」を立てるポイント

★4年生の間に 少しどりよくすれば できること

★回数や期間を入れて くわしく書く(=「もくひょう」ができたか はっきりわかる)

△「毎日5時間自主学習をする」「1日1回だけあいさつをする」「～をがんばる」「～たくさんする」

2 「もくひょう」が たっせい できたか ふり返りましょう(1週間ごとにふり返る)。

新しい「もくひょう」が できたら 書きたしましょう。

もくひょう	たっせい！

「もくひょう」のれい

- ・ 1週間で5日間は家庭学習を40分間する
- ・ 漢字のミニテストで連続～回クリアする
- ・ 50問漢字テストで90点いじょうとる
- ・ 鉄ぼう/なわとびで～のわざを～回できるようにする
- ・ リズムなわとびで～級をクリアする（ために毎日～分間練習する）
- ・ 1週間、毎日ストレッチをする
- ・ 毎日10人以上の人と話したり遊んだりする
- ・ 家の手伝いで、1週間に5回いじょう～をする
- ・ 1週間「ほめ言葉シャワー」でほかの人とちがうことを言う
- ・ 習い事の～をできるように毎日～をする